

大阪湾漁場環境速報

平成22年11月9日発行
兵庫のり研究所

10月より播磨灘で大量発生している大型珪藻コシノディスカスが、大阪湾でも全域で多く認められました。そのため、河川水等の影響を受ける海域を除いて、窒素濃度が3~4 $\mu\text{g-at/L}$ のやや低い値を示しています。今後の珪藻、栄養塩動向に注意して下さい。

(水温) 表層は湾内19~21 $^{\circ}\text{C}$ 台で、平均20.9 $^{\circ}\text{C}$ 。昨年(21.2)比0.3 $^{\circ}\text{C}$ 低く、ほぼ平年並(20.9)。-10m層は平均21.3 $^{\circ}\text{C}$ 。

(塩分) 表層平均31.98psu(平年 31.81)。-10m層平均32.56psu(平年 32.32)。紀伊水道から流入する海水の影響を受けていた海域では33psu台の値であった。

(栄養塩、他) 表層の窒素濃度は平均6.8 $\mu\text{g-at/L}$ 、リン濃度は平均0.44 $\mu\text{g-at/L}$ 。窒素・リンとも平年(8.2, 0.59)より低い値を示している。-10m層(平均)は、窒素4.9 $\mu\text{g-at/L}$ 、リン0.43 $\mu\text{g-at/L}$ 。コシノディスカスが湾全域で大量発生しており、特に関西空港沖で発生量が多かった(分布図参照)。表層塩分が低い神戸市沿岸、湾奥部、大阪府沿岸では、コシノディスカスの他の小型珪藻類は少ない状況。また、タラシオシラ(*Th. diporocyclus*)がほぼ全域で認められた。透明度は3.5~8.0mで平均5.0m。pHは表層平均8.20。

上段 (今回値)	平成22年11月8日調査
中段 (昨年値)	平成21年11月6日調査
下段 (平年値)	

調査地点	水温 (°C)	塩分 (psu)	三態窒素 ($\mu\text{g-at/L}$)	リン酸 ($\mu\text{g-at/L}$)
04	21.9	33.15	3.8	0.35
	21.9	32.93	5.0	0.53
	21.7	32.79	5.3	0.49
05	21.3	32.44	4.1	0.41
	21.9	32.30	5.1	0.63
	21.1	32.11	7.8	0.70
06	21.1	32.23	3.7	0.41
	21.1	32.18	4.5	0.60
	20.6	31.53	10.1	0.67
07	21.2	32.41	4.2	0.45
	21.6	32.19	5.3	0.77
	21.1	32.08	7.1	0.65
08	21.8	33.05	3.5	0.34
	21.8	32.83	5.3	0.57
	21.2	32.37	5.9	0.52
09	21.9	33.14	3.2	0.34
	22.0	32.84	5.0	0.57
	21.4	32.57	5.6	0.53
010	20.3	32.27	2.8	0.27
	20.7	31.74	3.5	0.43
	20.7	32.01	6.8	0.53
012	20.2	31.86	6.2	0.37
	21.2	32.21	4.5	0.59
	20.5	31.62	8.0	0.55
013D	20.3	31.66	8.3	0.39
	20.4	31.53	0.9	0.36
	20.1	31.13	17.8	0.85
016	19.7	29.35	20.2	0.75
	19.6	30.00	7.2	0.49
	19.6	29.80	16.4	0.70
017D	20.2	29.89	24.7	0.91
	20.1	30.57	17.4	0.76
	20.1	29.79	42.8	1.57
018	19.8	29.43	19.4	0.75
	19.5	28.90	17.0	0.60
	19.4	28.21	34.8	1.47
S1	19.9	30.94	11.2	0.54
	20.4	31.63	4.4	0.55
	20.5	31.51	8.4	0.60
S2	19.3	29.50	17.4	0.68
	19.8	30.82	4.9	0.51
	20.0	30.51	12.0	0.62
S3	21.2	32.31	4.4	0.43
	21.4	32.01	3.7	0.65
	21.0	31.90	7.4	0.67
S4	21.8	33.04	3.7	0.38
	21.8	32.86	5.2	0.55
	21.6	32.74	5.5	0.51



